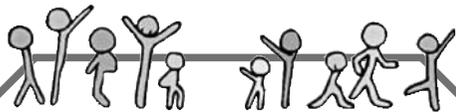
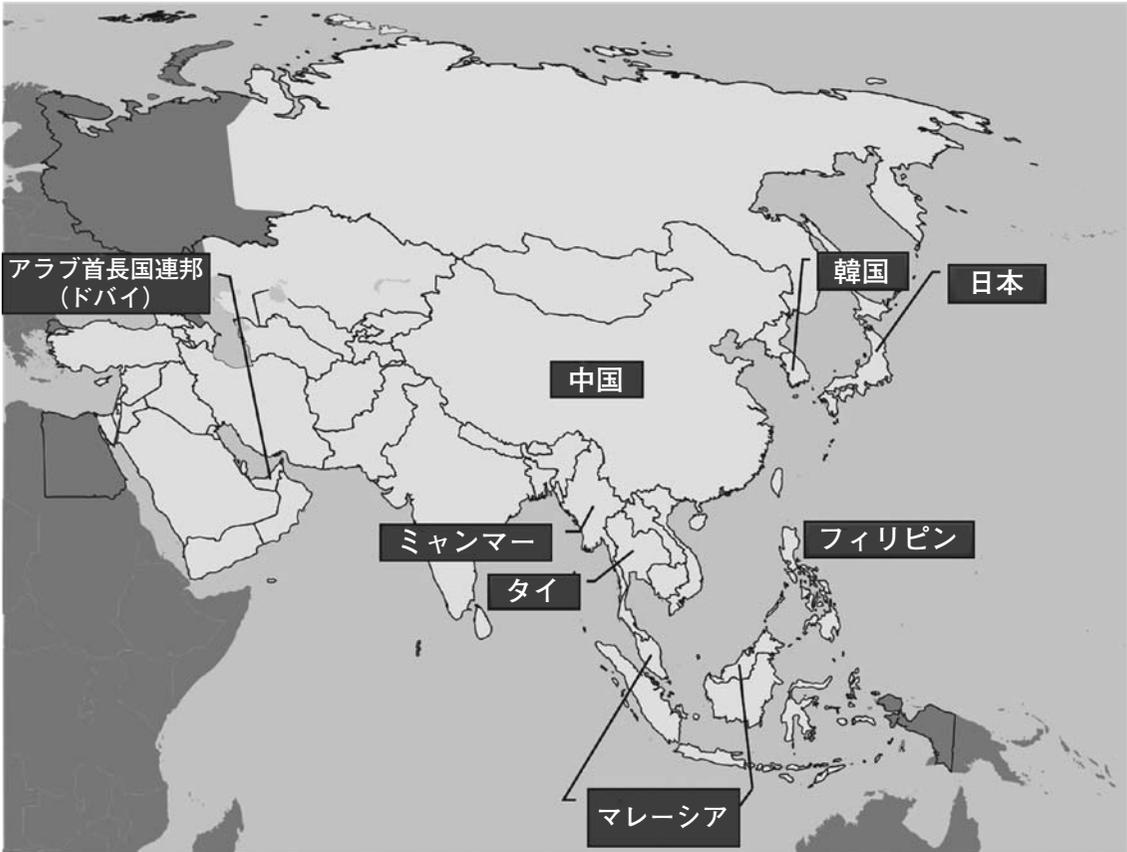


オススメ海外文化情報 ～アジア特集～



中国語ドラマから 中国文化を見る

地域政策学部 荒川 清秀

昨年の暮れあたりから中国ドラマにはまっていて、食後、家人と毎日1話ずつ見るのが日課になっている。今回、中国文化についてなにか書くようにという依頼を受け思いついたのが、

中国ドラマを通して中国文化を考えるというテーマである。ドラマは一つのタイトルで50話(一話=45分)近くある。すでに7本は見ているが、そのうち、とりわけ中国文化が感じられるのが、『都挺好』(ALL is well) というドラマである。

これは蘇州に住む夫婦と息子二人、娘一人の物語である。この一家が、母親の死を契機に潜在していた矛盾が一気に吹き出し、「すべてよし」どころか、いつまでたっても争いの止まらない展開が続く。長男明哲は勉強もよくでき、

アメリカの大学に合格するが奨学金がもらえない。まだ留学が珍しかった時代のことで、一家一族の栄光であるということで、母親は金を集め、挙げ句の果ては末娘明玉の部屋まで売って金をつくる。実は、この母親は夫との結婚に不満で、別の男と出奔しようとしたときに明玉を妊娠していたことがわかり、夢を果たせなかった。そこで、明玉に対し日頃から冷たく当たる。彼女は清華大学を目指していたのに、それをあきらめさせ、師範学校へ行かせようとする。明玉はこうした母親に反発し家を飛び出し、自分で学費をかせいで大学を出る。そして、大学在学中にアルバイトをしていた時知り合った起業家にやとわれ、今はめざましい活躍をしている。次男の明成は小さいときから母親に溺愛され、大きくなっても金食い虫で、ことある事に実家



娘の明玉を演じた姚晨 (Yao Chen) さん

から金をせびりとっている (啃老族)。明玉に対しても、暴言をはくし暴力を振るう。

○一族意識

このドラマを通して感じられるのは、蘇という一家の一族意識である。現実はどうどろしているのに、なにかあると長男の明哲や父親は「わたしたちは同じ家の人間だ (“我们是一家人”)」とってまとめようとする。明成が明玉に入院するほどの暴力を振ったときも、これは昔からの兄弟げんかだとその場を収めようとする。明哲はうまく収める力もないくせに長男意識だけ強く、しかもメンツを重んじる。そして最後にうまくいくと、これはすべて自分が立派にまとめたせいだと自慢する。

明玉は、小さい頃から明成に暴力を振るわれ、母親のひどいしうちにあい、それを恨みに思っているが、築き上げた財力と顔の広さで、失業した兄弟に仕事をこっそり斡旋し、父親を助けたりする。

○同姓でない

中国は夫婦別姓の国である。これは先進的であることを意味しない。同じ姓の間は一族だが、そうでない嫁はある意味よそのものだということである。ドラマのなかでも、嫁たちは蘇家のためにしばしば忘れ去られる。しかし、そこで黙っていないのが中国の女性で、彼女たちはしばしば夫の独断専行を阻止するため立ち上がり抗議する。それは痛快でさえある。働くのが当たり前という中国人女性ゆえの強さである。

○親孝行

ドラマを一貫しているのは、親孝行の観念である。中国ではどの子にも親を扶養する義務が

ある。わたしの知っている上海の中国人の母親は夫亡き後、アメリカ、オーストラリア、日本に住む子どもたちのところへ順に遊びに出かけていた。本ドラマでも、父親は次男と一時いっしょに住んだりしているし、最後は娘の明玉と暮らすことになる。この父親は、不本意な結婚をした妻の尻の下にひかれ、頭が上がらない。明玉が母親にひどい目にあっても、すぐに逃げていこうとする。中国語ではこういう人を“窩囊废”（ふがいない人間）という。しかし、一面ではしたたかで、ことある事に子どもたちに要求を出す。これを聞き入れるのが長男の明哲だ。だらしない父親にかばってもらったことがない明玉でさえ、父親になにかあると駆けつけ父親を助け、最後は認知症の症状が出た父親をひきとったりする。

○食事

ドラマでは食事の場面が多く出てくる。なにかあると「いっしょにご飯をたべよう」とか「ご馳走する（“我请你吃饭”）」という。まるで、ご飯を食べればすべてが解決するかのようだ。たしかに、これは中国人の社交術である。しかし、へたをすると矛盾を隠し、おごってもらった相手に借りをつくることになる。

食べる場面も面白い。ドラマではみんな肘をつけてご飯を食べる。おかずを運ぶのにトレイを使わない。取り皿がない。おかずはそのままご飯の中に入れて食べる。自分の箸で相手の茶碗におかずを入れてやることもある。骨はテーブルの上に出す。これはきれいな皿を汚したくないからだという。

料理ではスープがよく出てくる。入院中の病

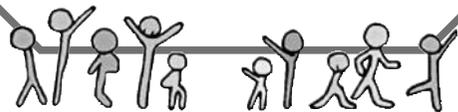
人への差し入れも、ポットに入れたスープだ。これは薬膳ということでもある。

人が来ると、お茶や（外で買ってきた）コーヒーを出したりするが、親しい人どうしだと“水”（お湯）を出す。お酒は男どうしは白酒やビールで一杯やることも多いが、上品な店や家だとワイン、とりわけ赤ワイン（“紅酒”）をよく飲む。

日本でも、子どもの進学で男女を区別したり、長男が親に文句をいえなかったり、家のためということで我慢をしいられたりすることがあるが、『都挺好』にはそれが典型的に出ている。見ながら人ごととは思えなくなる人もいるのではないだろうか。

オススメ・タイ占い情報

国際コミュニケーション学部
加納 寛



占いが好きである。もっとも、占い師のもとに行ったり、分厚い教本を読んだりするようなハードな選択肢はカンペンで、神社に行ったらおみくじを引いてみるとか、雑誌についている星占いを見てもかという程度である。タイでも、占いが好きな人は多い。ここでは、タイで、軽〜く経験できる占いについて紹介したい。

星占い

雑誌を買って最初に見るところ、それは当然、占い欄である。自分の星座を見てみると…